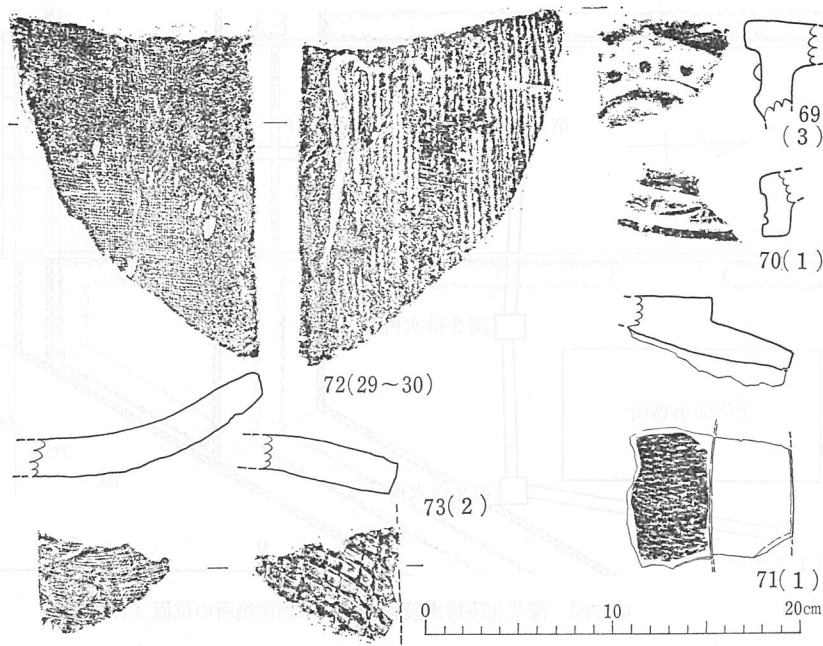




第16図 恵我藁伏岡陵の出土品(7) (1/4)

る。焼成は、瓦質のものが多く、須恵質のものは少ない。二次焼成を被ったものも含まれている。鑑瓦(69)は、径一三センチ前後に復元できる小振りの製品である。内区に細い尾を伴う巴文を有し、外区に間隔の

あいた珠文を配す。両者の間に圏線は認められない。宇瓦(70)は、厚さ三・三センチを測る。中心飾付近の破片である。唐草文が展開している。丸瓦(71)は短く下向する玉縁を有す。筒部凸面では、縦位の縄叩きの後、同一方向に軽く撫でている。凹面には、布目痕をとどめている。平瓦には、凸面に、縄叩き(72)と粗い格子叩き(73)のものがある。量的にはほとんどが前者である。丸瓦・平瓦ともに側端面は、緩やかな角度で大きく面取られているものが多い。

(福尾正彦)

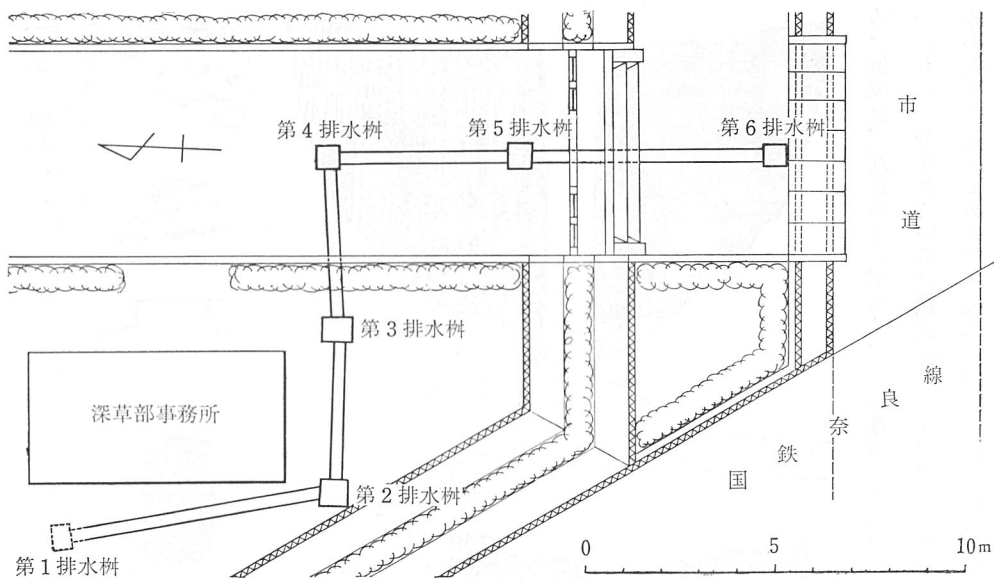
深草北陵排水設備改良工事箇所の調査

後深草天皇以下一三方を合葬する深草北陵には、深草部事務所が置かれている。その排水設備を改良して京都市の下水道に接続することになった。昭和五十七年五月十・十一日の両日、第17図に示す排水路の掘削に立会って調査した。

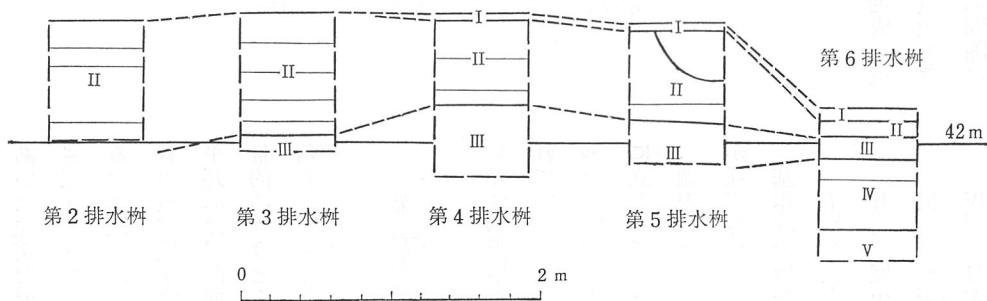
調査の結果、遺構は検出されず、盛土中から遊離した状態の土器片等が採集されたのみであった。予定通り、工事を行なった。

基本的な層序は次のとおりと思われる(第18図)。

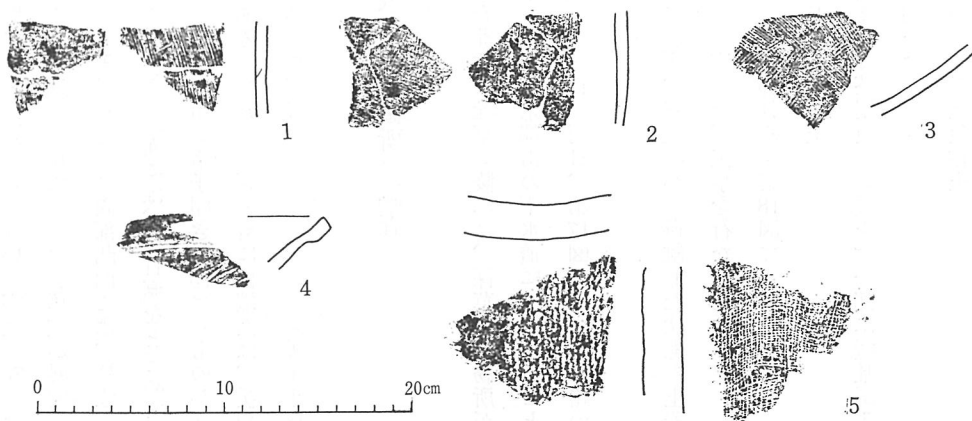
- I層 表土。小砂利まじりの黒色土。
- II層 盛土。黄・黄褐または茶褐色の砂質土。一部に攪乱が入る。
- III層 旧表土。黒灰色粘土。
- IV層 自然堆積層と思われる黒灰色粘土。



第17図 深草北陵排水設備改良工事掘削箇所の位置 (1/200)



第18図 深草北陵排水樹の地層 (柱状図) (1/50)



第19図 深草北陵の出土品 (1/4)

V層 地山。

I～IV層は、昭和四十九年度の調査でも認められた(本誌第27号)が、このたび、その性格の一部が明らかとなった。旧地表が確認され、それより上のI・II層は盛土であることが判った。なお、III層は、IV層の一部と考えることもできる。

出土遺物は、土師器・須恵器・陶器・瓦など三六点である。いずれもII層中から出土し、他所から運ばれてきたものである。

土師器(第19図1～3) 甕または鍋と思われる破片である。内面刷毛・外面撫でのもの、両面刷毛のものなどがある。前回の調査でも同種のものが出土している。ほかに、皿または坏の底部らしいものがある。須恵器(第19図4) 甕と思われる口縁部片。内外面に自然釉がかかる。外面に櫛描き列点文を配する。

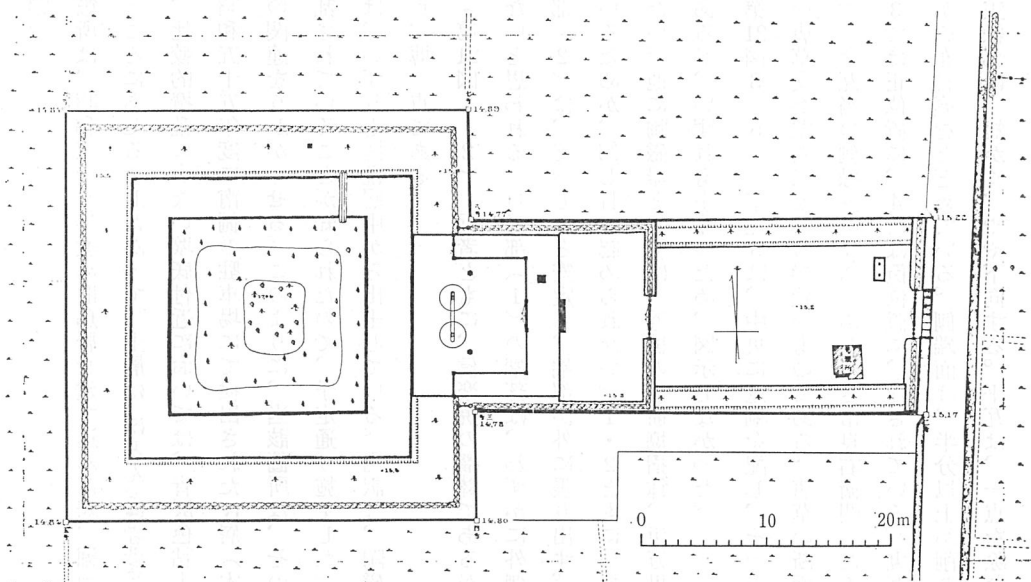
陶器 鉄釉を施した炝器質の破片がある。

瓦(第19図5) 布目のある平瓦。

(笠野 毅)

成菩提院陵鳥居建替工事箇所調査

白河天皇の成菩提院陵の鳥居を建て替えるにあたり、昭和五十七年九月十一日に立会調査を実施した。掘削は、鳥居の南北の柱の周囲を、それぞれ一メートル四方、深さ一・六メートル、手掘りによって行なった。



第20図 成菩提院陵調査箇所的位置(○印部分) (1/600)